八剣山の会春秋

春季号

平成 29 年 3 月 20 日

「八剣山の会春秋・編集部」発行

＜酉＞　画・美浪敏明

若草山山焼き 2017

2017.2.20 小出雅康

撮影日時:2017 年 1 月 28 日午後 6 時 15 分～45 分の間
撮影場所:平城宮跡　朱雀門西
撮影機材:三脚、レリーズ、キャノン D6、キャノン 70～300 ミリレンズ
Exif 情報:ISO 感度 100、絞り F8、露出補正マイナス 0.3、太陽光
編集ソフト:Digital Photo Professional 4（キャノン提供）

伊那佐山登山と納会

2017.2.14　木山　裕昭

2016 年の登り仕舞いは伊那佐山でした。12 月 15 日に登山メンバーが榛原駅前に集合し、奈良交通のバスで、比布へ。伊那佐文化センターで上岡さんが合流し、精鋭 13 人が全員揃いました。伊那佐山をバックに集合写真後、芳野川沿いに登山口に向かいました。天気はいうことなし。まるで秋晴れのような真っ青な空です。伊那佐山の優雅な姿を見ながら、足どりも軽いです。

そして、民家の間を抜けて、登山口へ。いよいよ登山開始です。雑木林の中を落ち葉を踏み締めながら一歩一歩登って行きます。

40 分ほど登ったでしょうか、ビューポイントの天狗岩に到着です。
そして、天狗岩に腰を下ろして集合写真です。ここからは、竜門岳、音羽山などの連山が青く連なって見えて、パノラマの景色を堪能しました。

天狗岩での眺望を楽しんだ後、いよいよ伊那佐山の山頂を目指して、歩を進めました。山頂には、都賀那岐神社があり、神武東征の際に詠まれた古歌の碑が社殿の前に建てられています。ここで昼食をとり、一休みしました。

そして、井足岳に向けての縦走を開始。登山道は倒木があり、慎重に歩き無事に山頂へ到着しました。ここからは、船尾集落へと下り、ススキの前で集合写真を撮り、今回の山行を終えました。

美榛苑で5時半から、須藤さんの司会のもと、2016年度の納会を行いました。

皆さんの笑顔がいいですね。2017年も山登りを大いに楽しみましょう！

雪の金剛山

2017.1.26　高見　毅

本年の初歩きは冬の金剛山（１１２５ｍ）、手を挙げたのは美浪さん、下谷さん、須藤さん、小出さん、赤井さん、安田さん、堀江さん、高見の元気印の８人と、なった。
１月２６日（木）榛原駅から八木、橿原神宮前、古市の各駅を経由して河内長野駅へ、そして、南海バスに乗換え金剛山登山口に９時３０分に到着した。　スタートは楠正成（南北朝時代）の合戦の地で名高い千早城址。この急坂階段で一汗かいて千早神社に参拝、アイゼンも装着していよいよ本番の登山が始まった。

登山道は“雪のじゅうたん”アイゼンの喰い付きが何とも心地いい。これぞ雪山。　千早本道に入ると、登る人、下る人で行き交う人が多く、コンニチワ、コンニチワの連続。中でも、ゼッケンを着けたジャージー姿の多くの女の子（聞けば大阪のプール学院の中学生２００人の耐寒遠足）とは下山まで終始、抜き、抜かれつの賑やかな道中となった。　翌日の当学院のホームページにはその日の模様が以下のように掲示されていた。

※1 月 26 日に耐寒遠足で金剛山に行ってきました。
風もなく、天候にも恵まれ、心地よい遠足でした。
縦割りの班編成で班行動を基本にして助け合いながら頂上まで登りました。　今年は雪が多く、最初から最後までアイゼンを着用して登りました。雪の中、元気に登れたことは、良い経験になったと思います。
（プール学院ホームページより）

来年に傘寿を迎える下谷さん（左）と堀江さん(右)は心身ともに未だ青春！脱帽です

いつもは階段の連続だが今日は雪に覆われたフラットな急坂。　この雪道を汗かきながら６合目まで登って来ると、下山してくる人が『８合目から上は凄く綺麗よ、毎年来ているけど、こんなのはめったにないよ』と、夢を広げてくれた。　天からのお土産だね。そう思うと足も弾む。確かに登るほどに全山が雪景色、これぞ銀世界だ。良かった！

丁度１２時に山頂広場に到着（ここで昼食）

『 撮ってあげましょうか？ 』
と、可愛い声に、頼むわと。
それが左のナイスショットだよ

葛木神社への参道

一等三角点

山頂広場で昼食後、純白の参道を踏みしめ葛木神社へ。次に赤井さんの目的の一つだった一等三角点（頂上より１３m低く、湧出岳とも言う）を認知し、“ちはや園地”から伏見峠、念仏坂を下ってロープウェー下のバス停に到着した。バスの出発時間１４時４４分、一息する間もなく満員の乗客に分け入る。（この時間は計画通り）帰りも同じ電車だが途中、橿原神宮前駅の構内にて反省会、ビールで乾杯して乾いた喉を潤した。いい気分だ！　そして、榛原駅に到着。さて、ここでバスに乗ると思いきや、天満台まで歩くとのこと。皆、何事もなかったように軽い足どり歩き始めた。歳を考えてよ！　こんなことで今回の山旅は私の想像越えた山歩きとなって、無事に終えることができた。
“多くの人に愛される金剛山は適度な標高、広い参道、広大な山頂、そして、この山が白雪に覆われる時、一段と魅力的であると、体感した一日だった”ありがとう金剛山！

（完）

霧氷の花咲く鋭峰、高見山

2017 年 2 月 18 日台高山脈北端、高見山登山
企画案内人　須藤和雄

【Exif 情報】

撮影日:2017/02/18 カメラ:NIKON COOLPIX S3700
絞り値:f/3.7,露出時間:1/200 秒,ISP 感度:ISO-80
画像処理:PIXLR EXPRESS/Collage(Photo editor online)

(参考)写真集「高見山重雪踏々、霧氷堪能」

【四方山話】今年に入って頭を過ぎったこと

2017.2.25 須藤和雄

【一話】昔の記憶を呼び出す楽しみ

もう直ぐ７３回目の誕生日を迎える最近、心地いい早朝の散歩中に思う事がある。昨日の事など中々思い出せなくなってきたがかなり昔の事を思い出すことが多々ある気がする。音楽を聴きながら歩き続けると『音楽⇔人⇔場所』の関連で昔の暮らしのシーンが頭に浮かんでくる。

●ザ・ピーナッツ「情熱の花」を聴くと山形の実家の薄暗い居間でナショナル白黒テレビに噛り付いて見ていた弟を思い出す。
（下線付青字をクリックするとYouTube動画が開きます）
●The End of the World、カーペンターズではなくジュリーロンドンと1960年代に過ごした福島の薄汚い安アパート、更にはその時の部屋友(男)の顔・・・
●神戸南京町「老詳記」の前を通って「ぶたまん」の香りを嗅ぐと何故かデキシーランドジャズ「聖者の行進」と３０年位前、神戸を案内した山形の親爺、甥姪、娘たちが頭に浮かぶ。
●美しい楽曲Kalafina『storia』を耳にすると2009年スタートの長寿番組「ＮＨＫ歴史秘話ヒストリア」を思い出し、「後水尾上皇と徳川和子の恋話」に繋がり不思議な事に京都修学院離宮見学と同伴者の顔ぶれに結びつく。そして老舗料亭「平八茶屋」での会食シーンが蘇える。

等など気持ちが和む「昔の記憶」であり、死ぬまで忘れたくないが・・・
７３年間に経験した「苦しく厭な事」も多々有った筈だが何故か思い出さない。
幸福を希求する本能が脳の分別処理を指示してくれているのかも知れないが
これから先、どうなるか想像すら出来ない。

【二話】分かろうとする気力が持続しない事が多々

最近、付き合って貰っている知人友人の言動を思い出すと長い人生経験の為せる業なのか「変なプライド」や「根拠の無い自信」そして「単なる直感」と想像したくなる様な意見に遭遇する。特に、四文字熟語「融通無碍、森羅万象、輪廻転生、諸行無常・・・等など」を多用し論点をぼやかされると、意見交換の場から逃げ出したくなる。我々シニア世代にも ADHD 症状(不注意と多動・衝動性)が顕在化するとすれば尤もな事かも知れない。
（ADHD：本誌新年号「IT終活はどうする」の中でも記述）

【三話】最近のテクノロジートレンドについて

私の世代の暮らし(情報)環境はPC→Web→スマホへと続き、更にウェアラブルデ

バイス→AI(人工知能)＆IoT(モノのインターネット)へと変化、拡大しつつあるとか・・・訳の分からない時代に向かっている。
現実には PC、携帯電話などを毛嫌いする人達と共に生きている。しかし、今のヤング達は生まれた時から「手の届く近くにデジタル端末」があった。面白い時代だなぁと思う反面、後 10 年位はあまり変化して欲しくないと思う。世代間断絶は寂し過ぎるから・・・

【四話】「山に登る」について思う
仲間と一緒でも、登るのは自分一人。そして、自然と沈思黙考する事も楽しい。登山とは考える行為であり五体とのコミニュケーションする時間なのかも知れない。山に入り、登り道を進んでいくと、みな黙り、考えながら汗する人も多いと聞く。人にはそういうものへの憧れがあり、山の空気が憧れを提供しているのか知れない。ただ、不測の事態に対応が難しい「単独登山」だけは慎むべきと思っている。
又、2016 年春季号で寄稿した『最近の注目すべき登山情報』の中で書いた事だが高齢化の坂道を歩みつつある我々は近い内「地元に戻ろう、帰ろう！」と・・・「大和青垣の山々」も魅力に満ちていると。
名言『山高きが故に貴からず、樹有るを以て貴しと為す』の通りである。

新聞、テレビ、ネットニュース、ＳＮＳ等など情報源が多過ぎて戸惑っている。次々と流れて来る情報の整理、記憶が困難になったと自覚している。昨年の訳の分からない世相や出来事の元は「内向き、すぐ切れる」だった。言い換えると、「我が方ファーストで不寛容な時代」と云えるかも知れない。しかし、米国大統領のトランプ現象を見るとその感が益々強くなった様だ。近い内にこの流れが『オープン、辛抱強い』に風向きが変わらないものだろうか。
我々は「分かり易い」と「やわらかさ、しなやかさ」を渇望していると思う。
以上、焦点や結論が呆けてしまった拙文を終える。

シンガポール退職記念旅行記

今回は小生の退職を祝って娘の発案でシンガポールを旅する。本投稿も海外旅行記で皆さんには少々興味がなかろうかと思いつつ、小生にとっては今まで溜まっている資料を整理するチャンスと思い書き残して置く。昨年末 75 歳に達し後期高齢者というお墨付きをもらい、いよいよ先がない事を感じている。今風に言えば 90 や 100 歳も珍しくないがこればかりは誰も先のことはわからない。
昨年母が 102 歳で死去、遺産整理をしつつ感じるものがあったせいもある。
今年も私のキーワードは「減」だ。不用品と思われるものは片をつける、整理し、減量に勤めることです。
さて本題ですが小生 2001 年、平成 13 年末 60 歳で早目に退職した、遊び好きなことから長期休暇が取れ、体力のあるうちに海外登山、トレッキングと計画は盛りだくさんあり、この先年々年金も少なる思惑もあり 60 歳から年金を貰う選択をしてリタイアする。
2002 年 12 月 30 日から正月をはさみ 1 月 3 日までの 5 日間シンガポールに家内と娘と行く。
シンガポールは東南アジアでは経済成長著しく、治安がいい、英語が公用語で若い人は話せる、例のマーライオン像はあまりにも有名な観光スポット、そんな理由で選ぶ。
この時期のツアー代金は正月料金で通常より 3 倍高いが娘の勤務があり仕方ない。
ツアーのタイトルはシンガポールの 1 番の繁華街、オーチャードロードのど真ん中、“マンダリンホテルに泊まるシンガポール 5 日間“
国の正式名称はシンガポール共和国、人口 2000 年時点 326 万人、中国系が８０％弱、公用語は英語、日本との時差は－1 時間、気候は 1 年を通じ 24~32 度、我々が訪れた年末はスコールがあるがほんの一瞬、霧雨程度。現地の人達は傘を使わない。温暖で湿度が高い。
通貨はシンガポールドル、Ｓ＄１＝71 円　宿泊ホテルはシングル 1 泊で 1 万 5 千～2 万円クラス。
　1 日目　出発が午後遅いので初めてマイカーで関空へ、関空の駐車場へ、4 泊 5 日で駐車場料金は 11,500 円、電車代やリムジンバス利用より 3 人なので割安だ。
娘は独身時代から大阪のマンションに住み大きな車を所有、運転が好きで頼りになる。
　関空 16：30～シンガポール着 22:15、5 時間弱　空港で現地人の係員が待っていてホテルへ直行、早速トラブル発生、部屋にダブルベット 1 つのみ、大人 3 人で予約していたのに、すでに現地係員はいない。英語でやり取り、私の抗議に皆が寄ってくる。
　結果キングサイズベッド（Wベット）と簡易ベット（ライトシングルベット）を持ち込んだ別の部屋に落ち着く。その日はシャワーをして寝るのみ。
　2 日目　今日は大晦日の 31 日。　朝はバイキング、たまご料理が主の洋食だが朝からたくさん食べられない。それでもしっかり食べる。
今日 1 日、市内観光でまずはマーライオン公園、海のそばで観光客がいっぱい。
　国名の由来は 14 世紀、この島を訪れた王子が、ライオンに似た動物を目撃したと言い伝えから「シンガ・プーラ（ライオン・シティ）」と呼ばれるようになった。
　マーライオンは顔がライオンで体が魚で国のシンボルになっている。
　次にリトル・インディアのスリ・ビーラマカリアマン寺院、極彩色の彫像がぎっしり並び、

目を見張る。インド系の人々の多くが信仰するヒンズー教の寺院を見学。
　こんな街中でこじんまりしたお寺も珍しい。

リトルインディアのスリ・マリアマン寺院

　次にサルタンモスクを訪れる、シンガポールで一番の歴史と大きさを誇るイスラム教の寺院だ。イスラム教徒は敬虔な信者が多く一日５回もお祈りをささげるという。日本人には理解しがたいほどその神（アラー）を信じ、断食やアラーの為に自爆テロなどで知るがパキスタンに行った際も運転手もイスラム教徒で時間が来たらバスを止め我々トレッカーをバスにおいて屋外で西を向いて？お祈りをする、空港にもいたるところに礼拝所がある。
シンガポールにはアラブストリートやインド人街やチャイナタウンがまとまってあり、独特の雰囲気や土産、食べ物、レストランがそろう。バスを降りインド人街を散策する。シンガポールの多民族性を知る。各々の寺院が並ぶ。
次は国立ラン園（ナショナルオーキッドガーデン）のシンガポール植物園に行く。
我々日ごろランというと花屋さんで贈り物用としてしかお目にかかれないがここでは通路のそばに美しいランが集まり手の届く所にある。もちろん特別のものは温室にもあるが。結構湿度のある温暖な気候なのでランに適した所なのだろうと思う。
1859 年マレー半島のゴム業者が設立した歴史ある植物園だ。

　国立ラン園
昼食は中華の飲茶をレストランで食べ、次はお決まりの買い物ツアーでＤＦＳ（免税店）に案内される。割引券を渡され買い物すると旅行業者にバックマージンが渡される。その仕組みがわかるとそこでは買い物しなく土産に何を買うか品定めをして値段の相場を調べる。
夜は我々3 人でガイド本片手に地下鉄を利用し地元の人が多く利用する屋台村（ホーカーズ）に挑戦。中華の麺類が多く，点心など買い集めて食事する。結構にぎわっている。
せっかく来たならその国の民衆が利用する食べ物や市場を見て歩くのが好きだ。
ホテルの帰りよく考えると今日は大晦日、昨今は年越しのカウントダウンが流行っているが我々の泊まっているホテルは一番の繁華街、何かあるのか期待してオーチャードロードを歩く

が 11 時近いが人は多く歩いているがこれというイベントなどない。　　3/4
ホテルの隣は市内で一番大きいデパートの高島屋(義安城　ＮＧＥＥ　ＡＮＮ　ＣＩＴＹ）があり玄関前に大きな噴水があり多くの人がたむろしている。

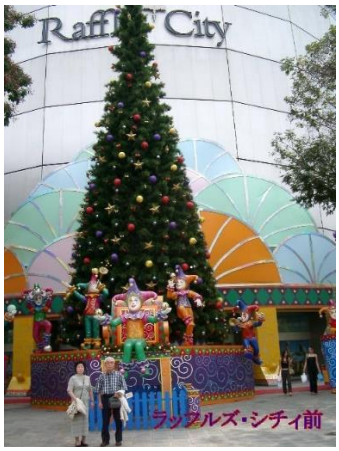
３１日夜のオーチャーロード　シンガポール高島屋　　チャイナタウンでショッピング

３日目　１月１日元旦日本の昔のように商店など正月休みなどもなく普通の日の感じだ。
今日は終日自由行動、一応計画は立てている。午前中は土産物などのショッピング、ホテル隣の高島屋（義安城、ニーアン・シテイ）へ行く、世界の有名ブランドが集まり、地下はスーパーマーケットで土産品を安く買える。
チャイナタウンへ移動、ケバケバしい色の衣類や装飾品が並ぶ、適当に冷やかしながら品定めをするがこれと言って興味のあるものはない。土産品屋というより日用品を扱う店が並ぶ。
午後 3 時にラッフルズホテルでハイティーを予約している。シンガポールと言えばラッフルズホテル、世界中のあこがれのホテルとして、一生に一度は泊まってみたいというシンガポールの象徴的建物、一応正装に近い恰好で訪れる。
自前で予約したがうまく予約ができているかちょっと不安。
ハイティーとは 3 段重ねのトレイにケーキやクッキーなどが並んでいる。
イギリス風の上流家庭のお茶の時間を味わってみる。紅茶を飲み、ケーキはバイキング風でいろいろ美味しそうなケーキが並んでいる。１人１３５S$これに１０％のサービスチャージがいる。３人で約 11,000 円、ちょっとリッチな気持ちになる。

ラッフルズホテルでのハイティー　　ナイトサファリ

夕方いったんホテルに帰りラフな格好に着替えホテルからタクシーでシンガポール動物園のナイトサファリへ出かける。２８ヘクタールという広大な敷地に動物たちが野生に近い状態で放し飼いにされている。森の中を散歩しながら動物たちに会いに行く感覚だが人と動物 などの境界は植物や水で仕切られている。像や虎、キリンなどもいる。園内はトラムカー（トロッコ電車風）が次々出ていて効率よく回れる。世界的にも珍しい夜間動物園でシンガポールの観光の目玉になっている。入場料大人２０．６５S$（１５００円くらい）と安い。
閉園は２４時だ。ホテルに帰ったのは２４時近く。目いっぱい遊ぶ。

４日目は帰りのフライトが２３時４０分発なので今日も１日自由行動。　　4/4
シンガポール本島から５００m離れた避暑地のセントーサ島へ行く、ホテル裏にあるバス停から港のセントーサプラザからケーブルカーが出ている、空中からの眺めも素晴らしく遊園地気分だ。
島に着くと巨大なマーライオンタワーが目に入る。高さ 37m のタワーの９階にマーライオンの口から見る展望デッキがあり海が広がる。タワーを降りると色鮮やかな噴水歩道があり子供がいれば水遊びができる。避暑でも楽しめる島だ。いつも朝から夜まで目いっぱい動きまわる。観光地も有名スポットをつまみ食いの感じだ。ゆっくり滞在して海を眺めながら本を読むそんな旅はいつになるのかと思う。
ネパールのエベレスト街道トレッキングでは欧米人は分厚い本を持ち込みロッジのテラスで山を眺めながらゆったりと本を読む、そんな姿にあこがれるが。
帰りもチャンギ国際空港から、世界的にも評価の高いアジアの空運拠点、100 万㎡もあり現在ターミナルは 4 か所、60 数か国の国の飛行機が利用している。
あのアフリカ玄関口のドバイ空港、最近は韓国の仁川（インチョン）空港などハブ空港で先を見越した発展する国の政策が行かされている。ショッピング天国を満喫できる。
当時ターミナルは 2 か所で１００軒近いショップ、レストラン、コーヒーショップなどありカラオケルームや乗り継客用に時間単位のトランジットホテルもある。ちょっとしたミニシティーだ。



セントーサ島へはケーブルカーで行く

セントーサ島のマーライオンタワー

ＴＨＥ　ＥＮＤ

芭蕉さんのこの一句　～アンケートの結果から～

全国の俳句結社の代表者が選んだ「芭蕉の作品の中で最も好きな作品」百五十七作品の中から、その上位二十句を挙げましたからご鑑賞ください。
あんさんはどの句がお好き？　8(平凡社の資料から)　　金城　凡生

二十位　**あかあかと日はつれなくも秋の風**

※ 赤々とつれなく日は照りつけるけれど、秋風が吹く季節となった。

十九位　**野ざらしを心に風のしむ身かな**

※ 風雨に晒されてしらけた頭骨となることを覚悟する私に秋風が吹き、心の底までしみ込んでくる。

十八位　**行く春や鳥啼き魚の目は泪**

※ 行く春に、鳥が鳴き、魚の目には涙が溢れている。

十七位　**この秋は何で年寄る雲に鳥**

※ 今年の秋は、何で老いたと感じるのだろう。雲の中に鳥が消えてゆくようだ。

十六位　**菊の香や奈良には古き仏たち**

※ 菊の香が漂うこの奈良の都には、古い仏たちがいる。

十五位

さまざまの事思い出す桜かな

※ この桜を見ているとさまざまなことを思い出す。

十四位

行く春を近江の人と惜しみけり

※ 行く春を、近江のひとたちともに惜しんだ。

十三位

古池や蛙飛び込む水の音

※ 古池に蛙が飛び込む水の音がした。

十二位

象潟(きさかた)や雨に西施(せいし)が合歓の花

※ 雨の象潟で、合歓の花が目をつむる西施のように美しい。

十一位

面白うてやがて悲しき鵜舟かな

※ 鵜飼を見ていて面白かったが、やがて悲しくなった。

十位

秋深き隣は何をする人ぞ

※ 秋も深くなった。隣はどんな人がどんな暮らししているのだろう。

九位

五月雨の降り残してや光堂

※ 五月雨は、光堂だけには降らず残している。

八位

石山の石より白し秋の風

※ ここにある石山の石よりも、秋風はもっと白く感じられる。

七位

この道や行く人なしに秋の暮

※ 秋の夕暮れ、この道を行く人もいない。

六位

海暮れて鶴の声ほのかに白し

※ 海が暮れて、鶴の声がほのかに白く聞こえる。

五位　五月雨を集めて早し最上川

※五月雨を集めて、最上川の流れが早くなっている。

四位　旅に病んで夢は枯野をかけ廻る

※旅の途中、病に倒れ、みる夢は枯野をかけめぐる夢である。

三位、　夏草や兵どもが夢の跡

※兵士たちの功名の夢は消え、跡には夏草が茂るだけである。

二位　閑さや岩にしみ入る蝉の声

※静かさの中、岩にしみ入るように蝉の声が聞こえる。

一位　荒海や佐渡に横たう天の川

※荒海の向こう、佐渡島の上に天の川が横たわっている。

（奥の細道　序章から）

月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人也。
舟の上に生涯をうかべ馬の口とらえて老をむかふる者は、
日々旅にして、旅を棲とす。

（完）

～～～